

前橋学 MAEBASHIGAKU 市民学芸員 SHIMINGAKUGEIIN 養成講座 YOUSEIKOUZA

前橋市の歴史文化遺産を活用した地域づくりの担い手となる「前橋学市民学芸員」養成講座(第1期)を11月まで開催中。このコーナーでは、すでに開催された講座内容の一部を紹介し、また、第2期講座の受講生を下記のとおり募集します。

問い合わせは
文化国際課 ☎027-898-6992

第12回テーマ 前橋の旧町名

講師

群馬地名研究会・倉地啓仁さん

現在の前橋市の町名は、昭和37年に施行された「住居表示に関する法律」に基づき、昭和40年から42年にかけて、わずかに数町を残して段階的に変更されました。



昭和初期の桑町通り(現・中央通り)左から白牡丹、今井玩具店、鈴木薬局(写真:桑町会館提供)

旧町名には、当時の人々の日常生活形態のほか、地形や地質などの風土が表れています。

例えば、桑町(現在の中央通り商店街近辺)は、製糸業で栄えた町を象徴するかのよう、町内に大きな桑の木があり、明治40年頃まで、春になると桑苗の市でにぎわっていました。

また、曲輪町(現在の県庁・市役所・裁判所近辺)は、かつて前橋城があり、城の本丸の跡にできた町。くるわには「郭」や「廓」の字もあり、城やとりでなどの周囲に築いた石や土の囲いがあった地域ということ、曲輪町と呼ばれていました。なお、昭和3年完成の群馬県庁舎(現昭和庁舎)建設のため、大正15年に県庁正面の土手は崩されました。

受講生を募集します

第2期市民学芸員養成講座

第2期前橋学市民学芸員養成講座の受講生を募集します。平成27年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」に興味を持って本市を訪れた観光客などに、歴史や文化など、前橋の魅力を伝える学芸員として活躍するための知識を身に付けます。

日時 来年1月20日～6月2日の火

曜15回、午後7時～8時30分

対象 講座終了後に前橋学市民学芸員として観光ボランティアや展覧会などの解説員として活動できる人、先着50人

申し込み 10月22日(水)～11月5日(水)に文化国際課 ☎027-898-6992へ

「花燃ゆ」放映決定記念企画



あなたの疑問に答えます!

平成27年NHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹で、初代群馬県令・榎取素彦の妻となる文が主人公です。このコーナーでは、「花燃ゆ」に関する皆さんの疑問に答えます。

Q. 文のきょうだいはどんな人がいたの?

A. 文は、三男、四女の7人きょうだいでした。長男の梅太郎(民治)、次男の寅次郎(松陰)、長女・千代、次女・寿、三女・艶、四女・文(のちに美和子)、そして三男の敏三郎です。長男の梅太郎は、妹や弟から頼られる兄で、早くから次男の松陰の志を理解し、常に松陰を支え続けました。明治維新後、松下村塾を再開するなど、松陰の遺志を受け継ぎます。三男で末っ子の敏三郎は、生まれつき耳が聞こえず、話ができなかったそうですが、きょうだいみんなで敏三郎を支えたそうです。また、長女の千代は、母の代わりとなって、家庭を切り盛りするしっかり者。また、次女の寿は、幕末の戦乱にも気丈にふるまった女性で、15歳のとき、後の初代群馬県令・榎取素彦に嫁ぎ、前橋でも暮らしました。杉家は、きょうだいの仲が良く、幕末の戦乱や貧しい生活の中でも、支え合っていたそうです。

若い芽のポエム 入賞者決定

全国の小学生から高校生までを対象にした詩のコンクール「第18回詩のまち前橋若い芽のポエム」の入賞者作品が決まりました。

文化国際課 ☎027-898-6992

入賞者は90人(敬称略)

今回は、20都道府県から1万9,189編もの応募がありました。この中から選ばれた入賞作品は3部門で90編。各部門の入賞者は次のとおりです。

- 小学生の部 横山駿介(桂萱小5年)(銀賞) 江戸来待(元総社小2年)(銅賞) 松本優奈(永明小4年)(佳作) 11人(入選) 34人
- 中学生の部 森田風太(高知学芸中2年)(銀賞) 横地花菜(七中1年)(銅賞) 新井杏果(東中1年)(佳作) 7人(入選) 18人
- 高校生の部 住谷舞歩(高崎商科大附属高1年)(銀賞) 四塚麻衣(石川県小松高3年)(銅賞) 阿部初音(共愛学園高3年)(佳作) 3人(入選) 8人

贈呈式・朗読会

日時 11月22日(土) 贈呈式 午後1時(朗読会) 午後1時40分
会場 前橋テルサ

美棹賞

桂萱小5年 横山 駿介

ドッジボール

昼休みドッジボールをした
はいわかれてと声がかきこえたきこえた
いつのまにか始まった
そしたらボールがとんでくるのが見えた
たしかに見えた
バシッとぼくはボールをキャッチした
とてもうれしかった
みんながオーといったあつちからもオー
ぼくはボールを力いっぱい投げた
そしたらあつち
心がはねちゃうくらいうれしかった
そしたらどこからかまたオーときこえた
周りを見ると一年生がドッジボールをしていた
どうやらだれかをあてたらしい
ドン
あっ
いっしゅんびくりしたとてもびくりした
ゆだんしてあたってしまった
ぼくはしまったしまったとあせった
ぼくはがいやへいって
またさっきみたいにあててやる
するとボールがぼくの所へきた
パスだった
しめた!と思った
力いっぱいまた投げた
あともうちょっとで当たったけどよけられた
次こそは!次こそは!と思った
またボールがきた
今度こそは!絶対いあててやる
さっきの二倍力をこめ投げた
えいっ!
きたーキヤーと声が出た
ドンとだれかがあつち
とつてもスッキリした
校庭がほめてくれるように
ヒューと風がふいたたしかにふいた
やったねとぼくにはそうきこえた

美棹賞

高知学芸中2年 森田 風太

赤い顔

「ここを左に曲がって…あつち!この病院や」
入り口のところでお父さんが待っている
アルコール消毒を十回程すると、お母さんの
部屋へ入った
お母さんは少し苦しそうな顔で
「前におるで」
部屋から少し行ったところにガラスをはさんで
何人かの赤ちゃんが寝ているのを見つけた
よく目をこらして名札を見た
すぐ近くのところ
「森田 男の子」
そこには赤い顔
芋ケンピのような指
少しはれた太もも
こいつが俺の弟じゃ
気付くと三十分ぐらい経っていた
ガラスから顔をのけると鼻息でガラスが曇って
しまっていた
顔も少しはれてしまった
「おまん小さいなあ」
と言つて部屋にもどった
もどるとおばあちゃんが
「どうしたぞね!その赤い顔は」
と言つて
二人で笑った

美棹賞

高崎商科大附属高1年 住谷 舞歩

おばあちゃんとセミ

涼しい風の入る部屋で
横になって上を向いて
目を開けて少し口も開けて
その耳に夏の音は届いているの
外でうるさく鳴くセミの声は
ここでそう話す私の声は
おばあちゃん
おばあちゃん
あのセミはすぐ死んでしまふ
それでもうるさく叫ぶ
だからこそ必死に鳴く
おばあちゃん
おばあちゃん
痩せた腕も動かさず
細い脚もそのままに
しわだらけのノドも使わず
うるさく死んでいくセミ
静かに生きるおばあちゃん
ねえ おばあちゃん
その耳に夏の悲しさは響いているの

